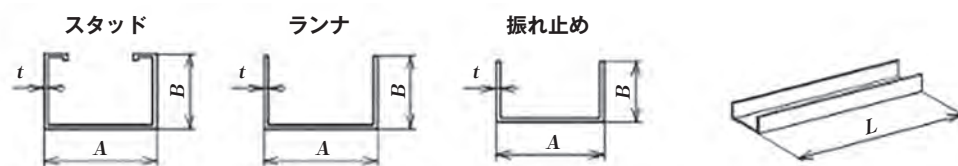


5. 寸法

表8. 壁下地材の構成部材の寸法

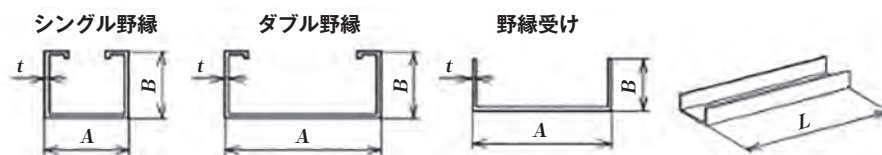


単位mm

構成部材	記号	幅(A)		高さ(B)		板厚(t)b)	長さ(L)a)	
		基準寸法	許容差	基準寸法	許容差	基準寸法	基準寸法	許容差
スタッド c)	WS -50	50	± 0.5	45	± 1.0	0.8	2400	$+40$ 0
							2700	
	WS -65	65					2700	
							3000	
	WS -75	75					3500	
							4000	
	WS -90	90					3000	
							3500	
	WS -100	100					4000	
							4500	
							4500	
							5000	
ランナ	WR -50	52	± 0.5	40	± 1.0	0.8	4000	$+40$ 0
	WR -65	67						
	WR -75	77						
	WR -90	92						
	WR -100	102						
振れ止め	WB -19	19	± 1.5	10	± 1.5	1.2	4000	$+40$ 0
	WB -25	25					5000	

注 a) 長さ(L)は、それぞれの記号の長さの上限内において受渡当事者間の協定によって定めてもよい。
b) 板厚(t)の許容差は、JIS G 3302 及び JIS G 3321による。
c) スタッドには、振れ止めを通すための孔を約1200mmの間隔で設ける。ただし、上部ランナ上端から400mm以内に位置する孔は、受渡当事者間の協定によって省略してもよい。

表9. 天井下地材の構成部材の寸法



単位mm

構成部材	記号	幅(A)		高さ(B)		板厚(t)b)	長さ(L)a)	
		基準寸法	許容差	基準寸法	許容差	基準寸法	基準寸法	許容差
シングル野縁	CS -19	25	± 1.5	19	± 0.5	0.5	4000 5000	+40 0
	CS -25			25				
ダブル野縁	CW -19	50		19				
	CW -25			25				
野縁受け	CC -19	38	± 0.5	12	± 1.5	1.2		
	CC -25					1.6		

注 a) 長さ(L)は、それぞれの記号の長さの上限内において受渡当事者間の協定によって定めてもよい。

b) 板厚(t)の許容差は、JIS G 3302 及び JIS G 3321による。